

時代とハートを動かす

SEIKO

2014年3月期 年次報告書
2013年4月1日～2014年3月31日

Report



GPS ソーラーウォッチ「セイコー アストロン」SBXB001 9月発売予定

セイコーホールディングス株式会社

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2014年3月期の年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社グループは2013年4月より「第5次中期経営計画」を新たに始動しました。その初年度にあたる2013年度は、ウオッチ事業が好調に推移して、大幅な増収増益を達成し、計画値を上回ることができました。

ウオッチ事業では、グローバル戦略をさらに加速させ、本年9月には、世界初のGPSソーラーウオッチ「セイコー アストロン」から、デザインや機能をさらに進化させた第二世代を発売いたします。

電子デバイス事業では、事業の構造改革を進め、半導体やインクジェットプリントヘッド等を中心に収益力が改善されました。システムソリューション事業では、この7月に、セイコーインスツル(株)のシステムアプリケーション事業をセイコーソリューションズ(株)に統合することで、さらなる事業拡大を目指してまいります。

また、当社のグループ力を結集して、より高い成長軌道を目指すべく、グループスローガン「時代とハートを動かすSEIKO」を制定いたしました。「常に時代の一步先を行く」という創業者の経営姿勢を堅持し、「ワクワク」「ドキドキ」するような躍動感を大切に、お客さまの心と深く響きあえる素晴らしい関係を創造したいという願いを込めています。

その取り組みの一つとして、スポーツ計時・スポーツイベントの協賛活動を一層充実させてまいります。また、東日本大震災復興支援コンサートの開催をはじめ、音楽番組への協賛活動などを通じて、「SEIKO」ブランドをさらに強化する活動を展開してまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく御礼申し上げます。

2014年6月



代表取締役会長 兼 グループ CEO
服部 真二

代表取締役社長
中村 吉伸

2014年3月期の取り組みと成果

2014年3月期のわが国の経済は、アベノミクスによりデフレから脱却しつつあり、個人消費も底堅く、回復傾向が続いています。世界経済では、米国で企業マインドの改善継続が雇用に波及して個人消費を下支えするなど、緩やかな景気回復を見せており、欧州でもドイツ等の輸出の増加を背景に景気が持ち直しつつあります。中国では所得拡大の減速一服感から個人消費に明るさが見え始め、成長の鈍化に歯止めがかかりました。

当社の当期の連結売上高は、前期の第4四半期に行った科学機器事業売却の影響という減収要因があったものの、前期より244億円増加し、3,082億円となりました。事業別では、ウオッチ事業は国内・海外で順調に売上を伸ばし、電子デバイス事業でも半導体を中心に回復しました。一方、システムソリューション事業は新製品開発の遅れなどにより伸び悩みました。連結全体で国内売上高は消費税増税前駆け込み需要の影響もあり1,480億円(前期比1.9%増)となり、円安効果を受けた海外売上高は1,602億円(同15.7%増)、海外売上高割合は52.0%(前期は48.8%)となりました。

利益面では、営業利益はウオッチ事業を中心に大きく伸び、対前期比84億円増の140億円となりました。また、営業外収支では持分法投資損益が悪化しましたが、経常利益は前期を69億円上回る101億円となりました。前々期のタイにおける洪水被害に関わる受取保険金88億円および関係会社株式の売却益12億円を含む投資有価証券売却益15億円など合計で105億円を特別利益に計上しました。一方、電子デバイス事業およびクロック事業における減損損失89億円、退職特別加算金14億円および生産拠点再編関連損失6億円を計上したほか、賃借契約損失引当金繰入額6億円などを計上し、特別損失合計で119億円となりました。これらにより法人税、住民税及び事業税、法人税等調整額および少数株主利益控除後の当期純利益は74億円(前期比34.3%増)となりました。

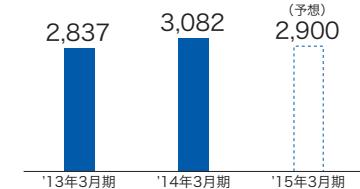
2015年3月期の見通し

日本経済は、消費税増税前駆け込み需要の反動はあるものの一時的なものと思われ、引き続き回復基調が続くと見込まれます。世界経済は、米国で個人消費や輸出の増加により堅調に推移することが期待されていますが、アジアにおいては中国経済の成長ペースが鈍化し、全体として緩やかに回復していくと思われれます。

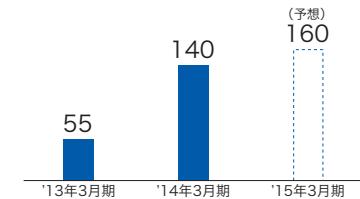
このような事業環境の中、当社は引き続きウオッチ事業で国内外でのシェアを拡大し、電子デバイス事業等の収益力強化を図ってまいります。当期末に眼鏡事業が連結から除外された影響を除けば、次期は増収増益となる見通しであります。

財務ハイライト

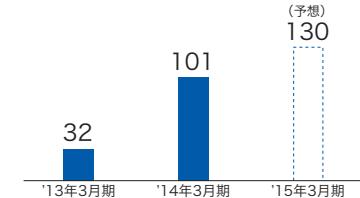
売上高 (億円)



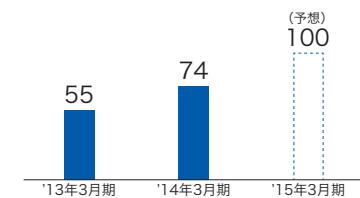
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



当期純利益 (億円)



ウォッチ事業

売上高 **1,507** 億円

おもな製品 ウォッチ、ウォッチムーブメント

ウォッチ事業の売上高は、前期比297億円増加の1,507億円(前期比24.6%増)となり、売上高の増加にともなって営業利益は122億円(同43億円増)となりました。

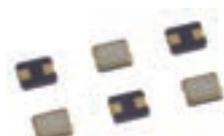
国内では、高価格帯商品である「グランドセイコー」、「クレドール」をはじめ、中低価格帯商品のレディースウォッチ「ルキア」やメンズウォッチ「ブライツ」など幅広い価格帯で売上を前期より伸ばしました。前期の9月に投入した世界初で唯一のGPSソーラーウォッチ「アストロン」からセイコー腕時計100周年を象徴するモデルとして創業者服部金太郎の理念を刻印した「服部金太郎特別限定モデル」を発売し、これら新製品が牽引するかたちで「アストロン」も順調に売上を伸ばしました。また、店頭において高級品3ブランド(グランドセイコー、クレドール、ガランテ)を戦略的に展開する「セイコープレミアムウォッチサロン」を当期に入り新たに5店オープンし、全国で合計27店舗に拡大するなど、ブランドの差別化戦略にも引き続き力を入れております。海外では、米国で大手チェーンやデパート向け売上が好調に推移し、欧州では英国、フランス、ドイツなどで売上を伸ばしました。また、アジアでは中国で売上を前期より落としましたが、台湾などで売上を伸ばしました。円安効果の影響もあり、円貨換算後の売上高はアメリカ、欧州、アジアそれぞれの地域で前期を大きく上回っております。ウォッチムーブメント販売は新興国市場での需要減退や円安の進行により価格競争が激しくなり、特に標準ムーブメントは伸び悩みましたが、高付加価値商品の大手顧客向けは順調に推移しました。



GPSソーラーウォッチ
セイコー アストロン
NEW DESIGN SERIES



グランドセイコー 広告表現



マイクロ電池
(チップキャパシタ)



インクジェットプリントヘッド

電子デバイス事業

売上高 **930** 億円

おもな製品 半導体、水晶振動子、電池・材料、プリンタ、ハードディスクコンポーネント、カメラ用シャッター

電子デバイス事業は売上高930億円、営業利益13億円となりました。安定的な収益構造の確立を目指す電子デバイス事業では、不採算事業の撤退も進み、半導体やインクジェットプリントヘッド等を中心に収益力の改善は順調に進みました。分野別には、半導体は車載向けやスマートフォン向け製品等を中心に売上が伸び、電池もスマートフォン向けなどの売上が順調に推移しました。インクジェットプリントヘッドは新興国向け建材用途および捺染用を中心に需要が拡大したことともない売上が伸び、小型サーマルプリンタは中国市場の流通決済端末向けの売上が増加しました。

システムソリューション事業

売上高 **228** 億円

おもな製品 データサービス、情報ネットワークシステム

システムソリューション事業は売上高228億円、営業利益3億円となりました。決済端末関連製品は新製品の投入と客先の設備投資の前倒しなどにより売上を伸ばし、ネットワーク製品も運用管理製品を中心とした通信機器の販売が好調に推移しましたが、モバイル関連は円安の進行により原価が上昇した海外調達製品の切替えにともなう製品開発の遅れなどにより売上を落としております。



タクシー向け決済サービス



通信プロトコルコンバータ
USTシリーズ

その他

売上高 **513** 億円

おもな製品 クロック、眼鏡レンズ・フレーム、高級宝飾・服飾・雑貨品、設備時計他

その他に含まれる事業では、売上高513億円、営業利益7億円となりました。眼鏡事業、クロック事業は円安の影響もあって売上は増加し、また和光事業も本館や法人営業が好調に推移し、商品別ではウォッチ、ジュエリー、室内用品などを中心に全体で二桁の伸びとなりました。



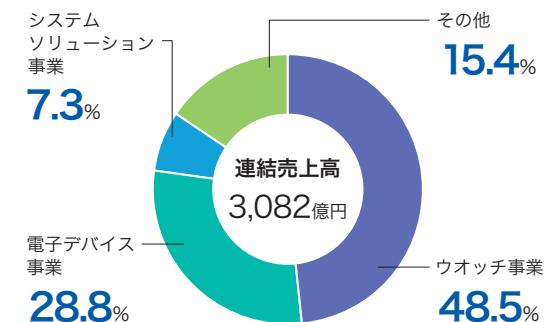
和光本館(室内用品)

セグメントの変更について

当期より電子部品等事業を電子デバイス事業とシステムソリューション事業に区分しております。また、クロック事業、眼鏡事業等は「その他」の区分に一括して開示しております。

事業別売上高構成比

(2014年3月期)



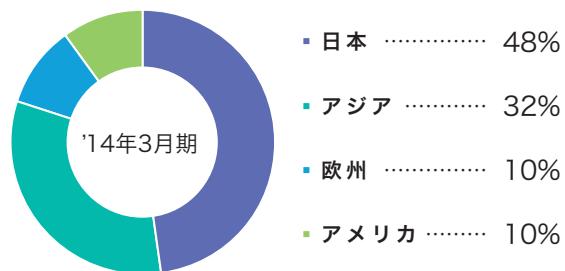
※上記の比率は、各事業間の内部売上高又は振替高調整後の数値に基づき算出しております。

連結貸借対照表

単位：億円未満切り捨て

科目	当期末 2014.3.31現在	前期末 2013.3.31現在
【資産の部】		
流動資産	1,583	1,568
固定資産	2,083	1,984
資産合計	3,667	3,553
【負債の部】		
流動負債	1,662	1,948
固定負債	1,357	1,196
負債合計	3,019	3,145
【純資産の部】		
純資産合計	647	408
負債純資産合計	3,667	3,553

地域別売上高構成比



連結全体で、国内売上高は消費税増税前駆け込み需要の影響もあり1,480億円(前期比2%増)、円安効果を受けた海外売上高は1,602億円(同16%増)となり、海外売上高割合は52%(前期は49%)となりました。

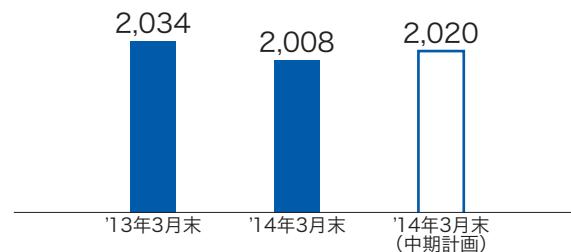
連結損益計算書

単位：億円未満切り捨て

科目	当期 2013.4.1から 2014.3.31まで	前期 2012.4.1から 2013.3.31まで
売上高	3,082	2,837
売上総利益	1,035	870
営業利益	140	55
経常利益	101	32
特別利益	105	130
特別損失	119	82
税金等調整前当期純利益	87	80
当期純利益	74	55

有利子負債

(億円)



短期借入金および長期借入金は合計で161億円増加しましたが、1年内返済予定の長期借入金が191億円減少し、有利子負債の合計は2,008億円となり、中期経営計画目標値の2,020億円以下を達成しました。

※有利子負債…借入金+リース債務

特集

グループスローガンを制定



グループスローガンを制定
時代とハートを動かす
SEIKO

当社はこれまで創業者の「常に時代の一步先を行く」という経営姿勢を貫き、絶えざる技術革新と製品・サービスの品質向上を続けることにより、社会に信頼される会社であることを理念に企業活動を行ってまいりました。この姿勢に、「遊び心」「ワクワク」「ドキドキ」といった価値観を加えて、これからもお客さまの心に響く存在であり続け、未来を創造していくという当社の熱い意志と躍動感を、新たな経営の思いとして表現しました。

今後このスローガンは、セイコーホールディングス株式会社、グループ事業会社で実施する各種コミュニケーション活動に活用してまいります。

東日本大震災復興支援プロジェクト

SEIKO 130 Actions

東日本大震災が発生した2011年は、セイコー創業130年の節目の年にあたり、さまざまな記念イベントを予定していました。しかし、震災の発生によりイベントを取りやめ、震災から3年間で130件以上の被災地支援活動を実施する「SEIKO 130 Actions」を展開することにいたしました。

支援活動の「輪」、一丸となって復興に取り組む調和の「和」など、「わ」の絆を広げていく活動をはじめ、被災地での除染作業、津波で流された写真の洗浄作業、募金活動や日用品の送付など、有志のグループ、個人で行うボランティアもアクションとして1つ1つ積み重ねた結果、活動は3年間で合計138件に達しました。

今後も、セイコーホールディングスグループは、東日本大震災の被災地を支援する活動を継続して実施してまいります。

(主な取り組み)



2014年3月11日、東京・日本青年館大ホールにて
“わ”で奏でる東日本応援コンサート in 東京 を開催
セイコーホールディングス(株)



“わ”で奏でる東日本応援コンサートを
東北6ヶ所で開催
セイコーホールディングス(株)



震災からの復興をめざし、「絆」をテーマにお客さまからの
メッセージを集めたウィンドウディスプレイ
(株)和光



米国サッカー選手 ドノバン氏による
チャリティーサイン会を
米カリフォルニア州で実施
セイコーウオッチ(株)



岩手県大槌町の小学校へクリスマスプレゼント
(株)和光、セイコーオプティカルプロダクツ(株)、
セイコーNPC(株)



津波で流された写真の洗浄作業
有志 セイコーホールディングス(株)



セイコー創業130周年記念
特別展で東北のこどもたちの
描いたクロックを展示し、寄贈
セイコーホールディングス(株)



東北の小学校・中学校・高等学校へ
チューナー・メトロノームを寄贈
セイコーホールディングス(株)



南相馬でのボランティアツアーに参加
有志 セイコーネクステージ(株)



東日本大震災復興支援ライブ
My Pace 2012を主催
有志 セイコーインスツル(株)

セイコーゴールデングランプリ陸上 2014 東京を特別協賛



2014年5月11日、国立競技場で行われた「セイコーゴールデングランプリ陸上2014東京」を特別協賛しました。

1964年東京オリンピックが開催された国立競技場は、2020年東京オリンピックに向け建替えられることとなり、本大会は、建替え前の最後の国際陸上競技大会として大きな注目を集めました。

セイコータイミングチームが、最新の計時・計測システムの提供で競技運営をサポートし、男子800mの日本新記録を含む多くの大会記録が誕生しました。

競技終了後、フィールドイベントボードをはじめとした各種表示盤に、国立競技場への感謝とお別れのメッセージが表示され、大会に花を添えました。

世界初のGPSソーラーウォッチ 「セイコー アストロン」から第二世代登場



2014年9月、約30%*の小型化とクロノグラフ(ストップウォッチ機能)搭載を実現し、操作性を大幅に向上したGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロン」第二世代コレクション全9機種を世界同時発売します。

「セイコー アストロン」は、地球上のあらゆるタイムゾーンで、ボタン操作ひとつで現在地の時刻をすばやく表示する世界初のGPSソーラーウォッチとして、2012年の発売以来、世界50か国以上で高い支持を集めています。

今回の劇的な小型化と操作性向上、クロノグラフ搭載で、「セイコー アストロン」は、新たな腕時計の「世界標準」を目指し、さらなる進化を続けてまいります。

※ウォッチヘッド部分比 (写真は2014限定モデル SBXB001)

■ 会社情報

会社概要

社名	セイコーホールディングス株式会社
創業	1881年(明治14年)
資本金	100億円
従業員数	112名(単体) 13,439名(連結)
本店所在地	〒104-8129 東京都中央区銀座四丁目5番11号
本社所在地	〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号 虎ノ門15森ビル 電話：03-6739-3111(代表)
WEBサイト	http://www.seiko.co.jp

役員 (2014年6月27日現在)

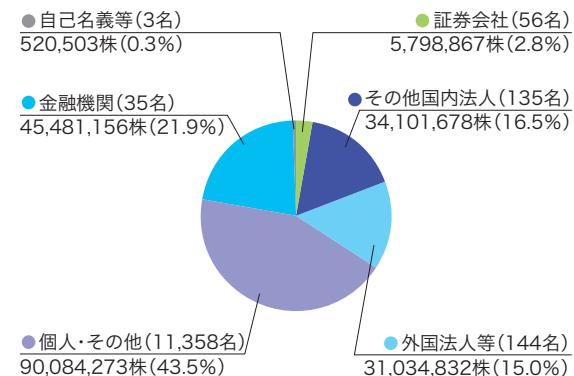
代表取締役会長 兼 グループCEO	服部 真二
代表取締役社長	中村 吉伸
常務取締役	内藤 昭男
取締役	梅本 宏彦
取締役	高橋 修司
取締役	大熊 右泰
取締役	村上 育
取締役	石井 俊太郎
取締役	藤井 美英
取締役	土居 聡
取締役	原田 明夫
常勤監査役	鈴木 政利
常勤監査役	三上 誠一
監査役	森田 富治郎
監査役	山内 悦嗣
監査役	青木 芳郎

■ 株式情報

株式の状況

発行可能株式総数	746,000,000株
発行済株式の総数	207,021,309株
株主数	11,731名

株式所有者別の状況



※自己名義等は、自己名義株式(263,094株)および当社関係会社が所有する株式です。

株主メモ

証券コード	8050
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
決算基準日	3月31日
期末配当金の基準日	3月31日 ※中間配当を行う場合は、9月30日が確定日となります。
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵送物送付先 お問い合わせ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 電話：0120-288-324(フリーダイヤル)
公告の方法	電子公告 ただし、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。

■ 主な国内連結子会社

セイコーウオッチ株式会社

セイコープレジジョン株式会社

セイコークロック株式会社

セイコーインスツル株式会社

セイコーNPC株式会社

株式会社 和光

セイコーネクステージ株式会社

セイコーソリューションズ株式会社

セイコータイムシステム株式会社

■ グローバルネットワーク (当社を含む連結会社数)



セイコーホールディングス株式会社

〒105-8505 東京都港区虎ノ門二丁目8番10号

電話 03-6739-3111(代表)

